2002年6月号 通巻第24号



スカウティング茨城

日本ボーイスカウト茨城県連盟
広報専門委員会　編集・発行
http://www.d2.dion.ne.jp/~bs18raki/

楽しく活動、楽しくチャレンジ!!



日本ボーイスカウト茨城県連盟理事長　佐野 英樹

平成13年度の本県連盟の50周年を記念する各種の事業では、皆さんの協力により大きな成果を上げることができました。本年度は、積み重ねられてきた50年の歴史に新たなの1ページを加える新たな出発の年です。

●スカウト諸君へ……

楽しいスカウト活動でチャレンジ精神を発揮しよう。

4月から土曜・日曜の休日を利用し、活動できる時間が多くなりました。班長を中心に計画し実践する班活動を活発にし、進級章や特修章などの取得にチャレンジしてください。また、集会時には班善行を必ず実践して、社会に役立つ活動を継続して下さい。

第13回日本ジャンボリーが大阪で開催されます。参加するスカウトは日頃の基礎的な訓練の成果を発揮する機会です。茨城スカウトの力を十分発揮できるよう今後も自分自身の向上に努力して下さい。

第20回世界ジャンボリーの開催もあり、国際的な活動の機会が増えました。このようなチャンスにチャレンジするスカウトが多くなることを願っています。

「スカウトの仲間を増やそう」皆さんの周りの友達にスカウト活動の楽しさをPRし、一人でも多くの友達を仲間にし、この活動がもっと広がるようにしたいと思います。

●指導者のみなさんへ……

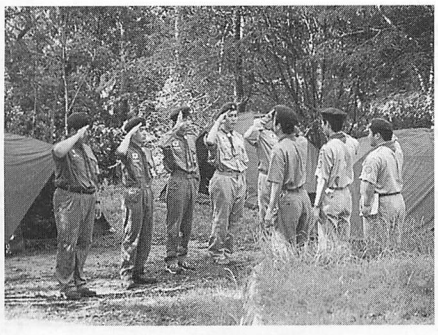
本年度は、学校週5日制で子供たちをとりまく環境が大きく変化する年です。スカウト運動の基本を踏まえ、時代の変化に対応できる運動として発展できるよう、皆さんの更なる取り組みをお願いしたいと思います。

さて今年は、13NJ・20WJが開催されます。一方で、ボーイ部門の進歩課程の改定・施行など、スカウトに直接係わる事項もあります。これについては指導者各位が共通の理解を深め、活動に支障がないよう配慮して下さい。

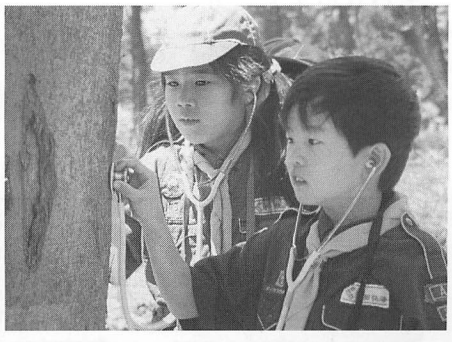
また、組織の拡大は数年来の課題です。中途退団者を少なくする方策など、団や隊の指導者の皆さんとともに取り組んでいきたいと思います。

進歩への取り組みとしては、団委員長はじめ隊長・保護者のご尽力で「菊章」「富士章」スカウトが増加しています。指導者も研修を常に心掛け、スカウトともに成長しなければなりません。家庭の大事な子供を預かる立場のわれわれは、保護者から頼りになり、かつ魅力ある指導者としての資質が求められるし、それがこの運動を確実なものにする大切な要素の一つであると思います。

今年も、各団・各隊の基盤を強化し、この運動の発展に努力していきましょう。





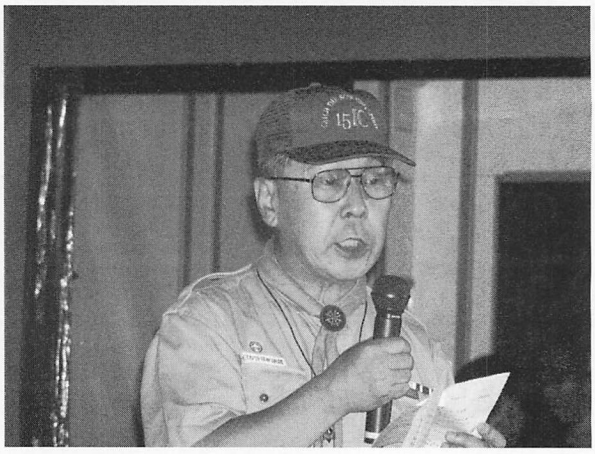


●茨城県連盟創立５０周年記念特集　　茨城県連盟の諸先輩方のことば　～第４回～

「あの日から」

茨城県連盟　名誉会議議員

相馬　順敬



1951年
昭和26年5月20日
戦争で　一度消された
スカウトの歴史の　“ともし火”が
茨城の地に　再び　ともされた日

16コ隊　400名のスタートだった

あの日から　50年

今　茨城県連は
57コ団　238コ隊　4102名となった

ここまで　50年
でも　あの日集まった　先輩達の顔は
もう　殆どが　見ることは出来ない

長い　道のり
大変な　努力
その　努力と“願い”を背中に
いま　私たちがいる

ユニフォームを揃えるのも
訓練の備品を集めるのも
キャンプ地へ行くのだって大変だったが
それが　とてもうれしかった　あのころ

大きなリュックを背負い
野営資材を　手で持ち
満員の列車で行った　夏のキャンプ
それも　遙か　昔の記憶

まわり道をしたり
困難にくじけそうになったりした
50年という歳月の上に
今がある

隊制度が団制度に変わり
年少隊が　カブに　少年隊が　ボーイに
年長隊が　シニアから　ベンチャーに
青年隊がローバーに変わった
４年ごとの　ジャンボリーも
台風の印象ばかりが　残っている

変わった
人も代わり　世の中も変わり　心も変わり
スカウティングのスタイルも変わってきた
しかし
B-Pのねがいは
いつになっても　変わらないはず
ちかいとおきてというコンパスを
私たちは　捨ててはならないのだ

今年の夏は　異常な暑さ
今日の設営も　汗びっしょりだった
だけど　スカウティングは自発活動
どんな条件の中でも
せいいっぱい　工夫して
自然の中で　生きるのが　スカウト

さぁ　これから
キャンポリーのプログラムか始まる

徹営のとき
「感謝」と「思い出」を
見つけることが出来るよう
４日間を　大切に　過ごそう

（2002.8.9）

これは、第15回茨城県キャンポリー（2001年）の開会式に、50周年を記念して朗読してくださった詩です。
相馬先生は、茨城県連の副コミッショナー（S42-52）、事務局長（S47-51）、理事（S55,56,59-62,H3-5）、名誉会議議員（S57,58,H63-H2,H8-）を歴任をされる一方、日本連盟では、リーダートレーナーとして指導者の養成に尽くされ、また宗教委員会委員長としてご活躍されました。また、多くの有益な資料を作製されたことでも有名です。そんな先生の訃報を聞いたのは、本年1月19日のことでした。

★DISTRICT REPORT★DISTRICT REPORT★DISTRICT REPORT★DISTRICT REPORT★DISTRICT REPORT★DISTRICT REPORT★DISTRICT REPORT★DISTRICT REPORT★DISTRICT

★HELLO IBARAKI 地区だより

このコーナー「ハロー、アイビー」は、各地区の通信員（地区記者）等からの情報で構成しています。地区も団も隊も、スカウト活動すべてが取材の対象だよ。

★from DISTRICT PRESS ☆★from DISTRICT PRESS ☆★from DISTRICT PRESS ☆★from DISTRICT PRESS ☆★from DISTRICT PRESS ☆★from DISTRICT PRESS

県 茨城県リーダーボランティア研修会
ボーイスカウトの神髄を伝授？



平成14年6月15日、16日の両日千代田町の県立中央青年の家において、茨城県の「地域で育てる元気っ子体験村事業」の実施に携わるリーダーボランティアのための研修会が実施されました。この事業の講師としてボーイスカウト茨城県連盟に要請があり、県連から9名の講師を派遣しました。

この事業は、①自然（野外活動）体験②異年齢との交流③地域を知る活動④地域で働く活動⑤地域の人との交流⑥その他の体験活動の6つの体験活動で構成され、今回の研修では①の「自然（野外活動）体験」についての具体的な3つのプログラムを提供し、参加者に実際にそれを体験してもらいました。

参加者は、高校生・大学生が中心で6～7人のグループになって行動します。研修はプログラムのプレゼンで始まり、参加者は「これは！」というプログラムに自主的に参加します。県連盟で用意したのは「忍者修行」「原始体験」「サバイバル体験」の3つで、それぞれ6名がエントリーがありました。早速12時間に亘るプログラムが始まりました。初めは固かった参加者もすぐに担当リーダーのペースにはまって生き生きと本来の自分の持ち味を発揮し、積極的に活動しはじめました。原始体験とサバイバル体験の2チームは、食材を近くの山で狩ったり採ったりし、竹を切り出して食器や調理器具を作って食事。そしてキャンプファイヤーで1日が終わりました。

翌日のグループディスカッションでは、今まで実施してきたことを「リーダー」の立場になって検証しました。

参加者の感想を聞くと「やればわかる」「体験することで自分に技能が身についていくことがわかった」「常に遊びゲームを通して何かを学ばせる」「班で分担すれば仕事が速く、また協力すればより大きなことができる」等々、それぞれがスカウトティング・スピリッツを感じ取ってもらえたようでした。そう、スカウティングはだれがやっても楽しいモノなのですよね。

県 健康安全委員会だより

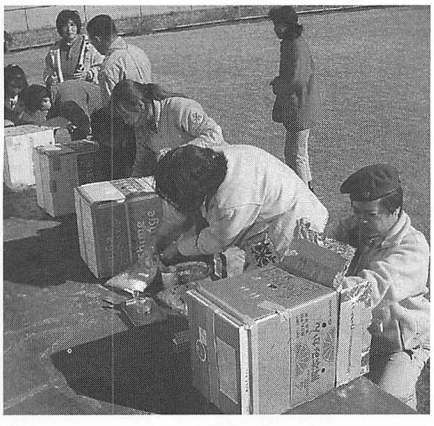


7月14～15日、平成13年度第1回スカウト救急法講習会が大洗子供の城において20 名の参加を得て開催されました。

第2回は9月22～23日に県立さしま少年自然の家で開催され、16名のスカウトが参加しました。二村主任講師の他3 名の講師によりダミー人形を使った蘇生法、止血法、ショック応急処置等、実際に役立つ知識と技術を学びました。

また、11月18日には、平成13年度指導者安全講習会が県立青少年会館で15名の参加を得て行われ、北岡健康安全委員長らによる、安全についての指針・事故に学ぶ（徳島の死亡事故）、スカウト活動に必要な保険（賠償責任保険、傷害保険）について、そしてビデオによる人工蘇生法についての研修をおこないました。

4 第4地区
ラウンドテーブル報告



12月16日、四地区ラウンドテーブルがつくば西公民館で行われました。今回は、指導者のための基本訓練がマイカップ持参で楽しく実施されました。野外料理では、ダンボール箱を使ったオーブンの製作、小麦粉と格闘のピザ生地作り。焼き上がったピザは最高でした。ロープでは筋交い縛りで木馬を作り、班対抗レースでは年を忘れてがんばりました。ソング・ゲームでは、即スキルアップに役立つものばかり、初心に帰り楽しい研修となりました。最後に吉永地区委員長より「今日学んだことを原隊に持って帰りスカウトと楽しく活動に生かしてほしい」との激励があり、素晴らしい仲間との出会いと有意義な1日を過ごしました。

④ 第4地区
思いがけない発見、巣箱のかけ替え



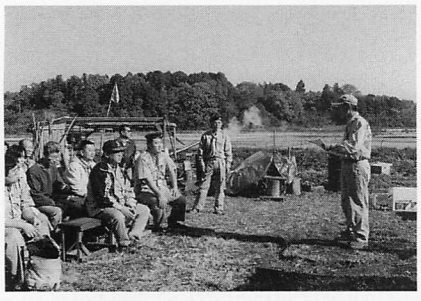
11月3日に、神栖第1団カブ隊では、神の池公園に設置した巣箱のかけ替えを行いました。

この巣箱は、2年前の3月のプログラムでシジュウカラなどスズメよりも小さな野鳥のために作ったもので、全部で19個あります。それを武道館の南側の木の地上から3〜5mのところにかけたのです。その際に神栖自然を楽しむ会の方に巣箱作りとともにその管理も大切だということを教わりました。2000年は不覚にもかけ替えの次期を逸してしまったので、今回は2年越しということになってしまいました。この期間、野鳥が巣箱をりよしているかなぁと何度も様子をうかがいに行ったのですが、その姿を見かけることはありませんでした。当時うさぎのスカウトも今はくまスカウトとなっており、また当時のことを知っているリーダーも少なく、隊長として時間を経過を感じました。

いよいよ巣箱をはずしてみると、なんと18個の巣箱に営巣の跡がありました。もっとも残りの1つは、カラス天狗でも入りそうな大きな巣箱で、出入り口も四角で大きいものでした。これらの巣箱は、枯れ草を取り除き、たわしで水洗いし、改修しました。もちろんカラス天狗用のものも入口を小さくしました。そしてリハウスされた巣箱に新築1つの20個の巣箱は、今度はバーベキュー広場に場所を移して設置されました。

今度こそ、小鳥が実際に利用している様子を観察できたらいいなあ。今後も身近なところから自然と関わっていきたいと思います。

⑤ 第5地区
プログラムの「素（もと）」研究会



第5地区では、11月24日(土)に、ちょっと変わった名前の研究会を開催しました。その名もプログラムの「素」研究会です。これは指導者がすぐさま自隊のプログラムに活かすことができ、幅広い分野から気軽にチョイスできる、そんな取り組みやすさを売り物にした定型外訓練があってもいいだろう・・・と言うというところから始まったものです。

第1回は、自然環境問題の研究、竹を利用したスカウト技能の向上、それらのプログラムへの展開、の3つを軸として、戸舘ALTを主任講師に招いて実施しました。実際の内容は、竹の切り出し、里山のお話、刃物の類の取扱方、竹を使った食器づくり、竹を調理器具として使った料理(炊き込みご飯、蒸しパン)、竹工作の製作と発表・・・と欲張ったものですが、楽しみながら創意工夫をして作り上げるという、和気藹々の雰囲気の中で大きな成果を得て、無事に終了しました。

県 進歩委員会
プログラム研究会

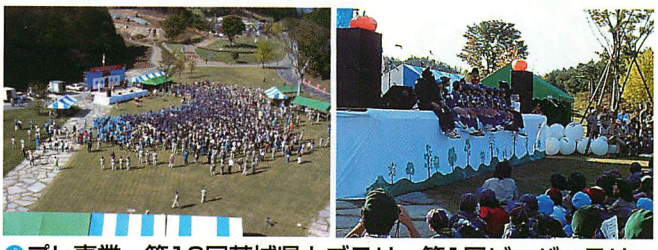
進歩委員会では、平成12年12月2日(日)に茨城県立青少年会館においてボーイ課程の指導者を対象にしたプログラム研究会を実施し、県内から43コ団56名が参加しました。特に今年9月からボーイ部門の進歩課程が大幅に変更になることもあり、概略の説明と来年度の年間プログラムへの関連づけを課題とした研究会となりました。

まず、津久井県コミッショナーが「パトロールシステムとスカウト活動」と題して、英国スカウティング誌掲載の「The Patrol System」等を資料をもとに、スカウト運動における「班制度」の意義を再確認した後、石本ALTによる「年間プログラムへの作成における進歩制度の取り入れ方」と「年間プログラム作成」の研修が行われました。この研修の中で、提示された資料「年間プログラム」「BS進級計画書」「BS3ヶ月計画書」等の活用により、プログラムプロセスの流れと進歩との関わりがより明確になりました。続いて、それを踏まえて8つのグループに分かれて年間プログラムを作成したことによって、確実な理解へと発展していきました。

次は、八木県副コミから「BS部門の進歩課程の改訂(案)」について説明がありました。これは現時点では正式には決定されたものではないが、導入予定である平成14年9月に向けて、日連での決定の後、年間プログラムへの導入や各隊でいち早く対応していくための心の準備をしてもらうためのものであって、現段階で解っている変更に至った過程や変更点などの説明がありました。

進歩委員会のこのプログラム研究会は、県連全部の団の参加を目標に掲げて開催しています。今回参加できなかった団の指導者のみなさんも、次の機会には是非とも参加していただければ幸いです。そして、互いに研鑽することによって、その成果がスカウトの姿を通して現れること祈ってやみません。





●プレ事業　第10回茨城県カブラリー第1回ビーバーラリー
新しい時代の到来を感じさせるイベントだった。



●5月20日は県連の誕生日
各地区で50周年を祝うイベントが開催された。





●8月9-12日 15IC
涸沼自然公園で開催。いつになく厳粛な雰囲気で始まった開会式。たくさんのプログラム、楽しいステージやFM局、そして韓国隊の参加など、盛りだくさんの大会だった。

21 世紀へのスカウト宣言

●ビーバー部門
わたしたちは、ともだちもしぜんもだいじにします。
●カブ部門
自然を愛し、友達を大事に、チャレンジ心をもって、積極的に行動します。
●ボーイ部門
スカウトは、世界の子どもたちと手をつなぎ、世界平和に貢献します。
●ベンチャー部門
世界に向けて友情の輪を広げ、何事にも勇敢にtryします。
●ローバー部門
地球の仲間と手に手を取り合って、同じ立場で活動し、人種民族間の偏見差別をなくし、不平等を廃絶しあらゆる領域でバリアフリーな社会を創造する。













●11月11日　ボーイスカウト茨城県連盟創立50周年記念式典・祝賀会挙行
ホテルレイクビュー水戸において、延べ1,000人を集めて盛大に挙行した。第1部はスカウトアニバーサリー、第2部は記念式典、第3部は祝賀会。司会・進行および演出は、次代を担うローバースカウト＆若手リーダーが担当、みごとその重責を果たした。









●1月19日　指導者の集い
学校週5日制の対応とスカウト活動の国際化について研究した。



●3月16日　創立50周年エンディングセレモニー
水戸京成ホテルにおいて、関係者約40人により実施。これまでの歴史とこの1年間の取り組みを振り返り、次の1年、そして次の50年に向かって決意を新たにすると共に、茨城県のスカウト運動の更なる発展のために仲間と共に進んでいくことを確認した。

茨城県連盟の50年間を振り返る

茨城県連盟は今年で50周年を迎えました。この間の皆さんを含めて、実に多くの方々がこの運動に携わってきました。皆さんの情熱と力があってこその50年なのですね。

さて、茨城県のボーイスカウトの歴史を振り返ると、もう少し過去にさかのぼることができます。ここでは、茨城県にボーイスカウト運動が芽生え始めた頃から見ていきたいと思います。

1907年　明治40年
ベーデン-パウエルがブラウンシー島で実験キャンプを実施。

1908年　明治41年
スカウティング・フォア・ボーイズ出版される。北条時敬、英国でボーイスカウト研究。

1912年　明治45年
ベーデン-パウエル来日









1923年　大正12年
三島通陽(のち4代日連総長)は佐野珖治の招きで笠間で講演。これがきっかけとなりボーイスカウト設立の機運が高まった。





1925年　大正14年
佐野らが日本最初の中央実修所に入所。県内では常陸太田、小川町をはじめ続々と少年団が結成されていった。

1931年　昭和6年
少年団日本連盟茨城県連盟が結成された。第二次大戦のため解散。

1947年　昭和22年
戦後、佐野は、県連復興のた
ともに立ち上がり、関東一円
と共に那須の三島家に集ま
で、指導者の養成にも力を入
指導者講習会を、笠間の佐

1949年　昭和24年
久慈1隊、西茨城1隊、土浦
隊、久慈2隊、3隊、土浦2隊
壁1隊、筑波1隊・・続々と
イスカウト隊が発足してい

1907年 明治40年 → 1923年 大正12年 → 1931年 昭和6年 → 1947年 昭和22年

2001年 平成13年 ← 1996年 平成8年 ← 1991年 平成3年

2001年　平成13年
いろいろな県連創立50周年記念事業が実施された。8月には第15回県キャンポリーが涸沼自然公園で開催。11月には50周年記念式典が水戸で実施された。



12NJ


15IC


15IC


10CR


75thC



1996年　平成8年
第5代刈部理事長就任。昨年からシニアーの海外派遣実施、オーストラリアへ。98年まで4回延べ100人が参加。

1997年　平成9年
第14回県キャンポリー第4回関東キャンポリーが群馬県相馬が原で開催され763名が参加。日本連盟では75周年記念式典が行われ県連 若手リーダーが中心となって大活躍。

1998年　平成10年
第6代川又理事長就任。
第12回日本ジャンボリーが秋田県森吉山麓で開催。

1999年　平成11年
第10回カブラリー第1回ビーバーラリーが笠間で行われ、新しい時代の波の到来を感じた。

2000年　平成12年
第7代佐野理事長就任。
第5回ベンチャー大会 が大分県久住高原で開催。また日本連盟主催日米スカウト交換計画派遣が行われる。

1900年　平成2年
第2代關連盟長、第4代吉田理事長就任。第10回日本ジャンボリーが妙高高原で開催され540名を派遣。

1991年　平成3年
県連40周年記念式典。第17回世界ジャンボリーが韓国で開催。

1993年　平成5年
第13回県キャンポリーが勝田で開催。第1回アセアンジャンボリーがフィリピンで開催され派遣団長以下5名が参加。

1994年　平成6年
第11回日本ジャンボリーが久住高原で行われ538名が参加。

1995年　平成7年
第9回カブラリーが笠松運動公園で開催。第18回世界ジャンボリー（オランダ）に14名が参加。


11NJ



徳川連盟長



佐野理事長





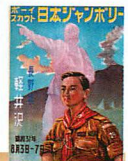
ゐ塙・打越らと
の再建を志す者
った。その一方
れた。戦後初の
山で行った。

1隊、西茨城2
、水戸1隊、真
県内各地でボー
た。

1951年　昭和26年
5月20日、三島総長ご夫妻をお迎えし、16隊400名をもって茨城県連盟が結成。水戸駅から茨城会館までパレードを行った。連盟長に徳川宗敬、理事長佐野珖治。この年蔵王で開催された全国大会に8隊300名を派遣。











1956年　昭和31年
第1回日本ジャンボリー（軽井沢）に13隊240名。
1959年　昭和34年
第2回日本ジャンボリー（あいば野）に11隊214名を派遣。台風の直撃を受けて全員が避難。第10回世界ジャンボリーに山田副理事長、桧山第2地区委員長がスカウトで参加。









1960年　昭和35年
10周年記念大会（写真上）。第5回キャンポリー大洗海岸野営大会（写真中）。
1963年　昭和38年
第1回年少スカウト交歓大会（カブラリー）
1965年　昭和40年
15周年記念大会（写真下）。
1968年　昭和43年
第7回茨城県キャンポリー（取手市キャノンの森）（写真右）

1951年 昭和26年
1956年 昭和31年
1961年 昭和36年
1966年 昭和41年
1971年 昭和46年
1976年 昭和51年
1981年 昭和56年
1986年 昭和61年

1986年　昭和61年
第9回日本ジャンボリー宮城県蔵王で行われ542名が参加このときも台風が直撃。県連盟主催のSS海外派遣がハワイで行われ1990年までに5回実施。
1987年　昭和62年
第7回カブラリーがつくば洞峰公園で、第16回世界ジャンボリーがオーストラリアで開催。
1989年　平成元年
第12回県キャンポリーが那珂町・日本原研所有地で行われ、またしても台風の直撃を受ける。



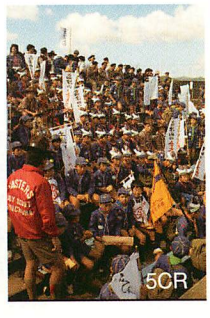




1981年　昭和56年
県連創立30周年記念式典、第10回県キャンポリーが勝田市・陸上自衛隊演習場で実施。
1982年　昭和57年
第8回日本ジャンボリーが宮城県南蔵王で行われ447名が参加。
1983年　昭和58年
第15回世界ジャンボリー。第6回カブラリーでは3000名ものスカウトが千波湖に集まる。
1984年　昭和59年
第3代橋本千代寿理事長が就任する。
1985年　昭和60年
国際科学万博開会式奉仕に125名のスカウトが奉仕。関東キャンポリーが群馬県相馬が原で開催され1005名が参加し、HOWDY IBARAKIを披露。



1973年　昭和48年
第8回県キャンポリー（北茨城・茜平）、第6回日本ジャンボリー（千歳原）、第14回世界ジャンボリー（ノルウェー）が開催。
1977年　昭和52年
第8回県キャンポリー（勝田）。
1978年　昭和53年
この年に第2代岩瀬理事長が就任。第7回日本ジャンボリーが静岡県御殿場で行われ390名が参加。
1979年　昭和54年
第5回カブラリー。10年ぶりに復活、日立市かみね公園で開催。（写真下）



1970年　昭和45年
第5回日本ジャンボリーが静岡県　朝霧高原で開催。（写真下）
1971年　昭和46年
第13回世界ジャンボリーが同地で開催。茨城県連盟から合同隊3隊120名が参加、台風がジャンボリーを襲い避難命令が出された。



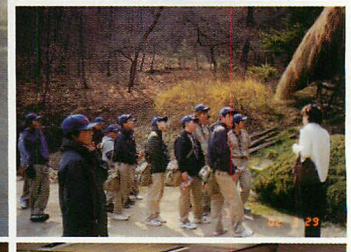




第1回 国際交流海外派遣（韓国）派遣報告












【第１回韓国海外派遣を終えて】

派遣団員　竹本　俊一

交流キャンプの中でスカウト達は、ネームカードの交換をしましたので、スカウト同士がことばの壁を乗り越え友達になり、互いに行き来しスカウト同士の交流を深められればと思っています。また、国際交流の楽しさに目覚め何名かのスカウトが20WJに参加申込をしてきたのも海外派遣の効果ではと思っております。今回の韓国訪問が「近くて遠い国」の韓国を名実ともに「一番近い隣の国」になる為の一石を投じた事になると思います。その波紋を広げるには今後も継続した交流を続けることだと思っております。

派遣団員　三浦　勉

5日目に韓国連盟のキャンプ場に向かい、いよいよ交流が始まった。開会式後の交換会や翌日の昼は韓国の郷土料理を中心に交歓し、お互いの言語で相手国の連盟歌を歌い合い、短期間によく練習したと感心した。特に午前のVSフォーラムは本当に中身の濃いフォーラムであった。また、キャンプファイヤーではスカウトが寒い中で盛り上がり、楽しい楽しい集いの一時を過ごした。韓国スカウトは月曜日から授業があるため21時頃に私達に別れを告げながら、名残り惜しそうに帰っていった。我々全員も同じ気持ちであることには変わりはなかった。

派遣団員　八木　雄二

この派遣を通じて感じたことは、スカウトに機会を与えれば彼らは大きな自信と誇りを持ち帰ることができるということです。また、スカウトにとっては、ほとんどが初めての海外でありましたが、韓国スカウトとの交流、特に「交流営火」や「フォーラム」などのプログラムにおけるスカウト同士の友情は心に残るものでありました。さらに班プロジェクトおよび個人プロジェクトでソウル市内での班行動を通じて、韓国の人々の優しさ、親切さを感じ取ったスカウトも多数おりました。　最後に、この派遣を成功裡に終わらせることができたのは何といっても、韓国連盟ソウル南部連盟とりわけソンパ地区の役員、指導者の方々の献身的なご協力があったからであります。この協力関係を大切にし、次回の派遣に継げていく事が私自身に課せられた使命であると考えています。

【派遣団報告書「団員報告」より一部抜粋掲載】

ボーイスカウト茨城県連盟
第１回 国際交流海外派遣(韓国)派遣報告

１．派遣団組織

派遣団本部 団長　竹本　俊一(県連副理事長)
団員　三浦　勉（県連事務局長）
団員　八木　雄二(県連国際委員長)
派遣隊　隊長　鹿野　和夫(日立５団)
副長　川崎　寿美(ひたちなか１団)
副長補　吉川　勇（水戸４団）
副長補　草間　歩（水海道１団）
スカウト　19名（VS：10, BS：9）

２．派遣日程

3/26 13:00 水戸青少年会館集合(プロジェクト活動、結団式および壮行会)
27　5:20 青少年会館出発　9:30成田発　11:40仁川国際空港着
午後 研修活動「統一展望台」
ソウル教育文化会館泊(3/27～29)
28　午前 韓国連盟および韓国連盟ソウル南部連盟表敬訪問 、韓国連盟需品部訪問
午後 班別行動「プロジェクト活動」
29　終日 研修活動「独立記念館」「韓国民族村」
30　韓国連盟中央キャンプ場(毘地岩)にて交流キャンプ。開会式後、交歓会実施
31　午前 プログラム
・ベンチャースカウトはスカウトフォーラム
・ボーイスカウトは交流会
午後 プログラム
・凧上げ　・料理　・革細工　・アスレチック
夜間 プログラム　交流営火
4/1　終日 班別行動「プロジェクト活動」
ソウル教育文化会館泊
2　6:00 教育文化会館出発、10:50仁川発、12:40成田着、13:30解団式、14:00 解散

３．プログラム展開

●国際交流

・3/30-31にソンパ地区を中心とする韓国連盟ソウル南部連盟のスカウトと交流キャンプを実施
・韓国側の参加者は指導者20名、スカウト50名(内、ベンチャースカウトは12名)
・班別に韓国スカウトと一緒に交流プログラムを実施、特に交歓会、交流営火は大いに盛り上がった。

●スカウトフォーラム

・3/31午前、ベンチャースカウトによるスカウトフォーラム開催
・出席スカウト日本側10名、韓国側12名、その他通訳および両国の指導者
・フォーラムのまとめとして日本側スカウトから「永遠(とわ)に続く友情の輪を」、韓国側スカウトから「これ以上の壁はない」という提言がなされた。
・非常の意味のある、また有意義なフォーラムであった。

●プロジェクト活動

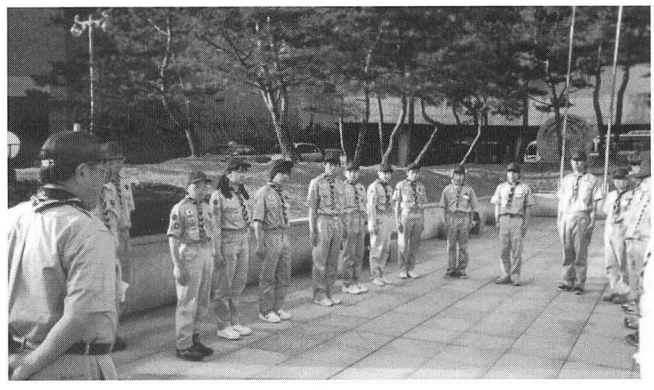
・今回の派遣においてはスカウトを４班に分け、各班毎に班プロジェクトおよび個人プロジェクトの活動を実施することとした。
・プロジェクト内容は３回の事前訓練にて内容の確認と指導を実施し、派遣期間中２回の班別行動で活動を展開した。
・活動結果はは帰国後の事後集会（１回目は4/13-14、２回目は５月予定）で取りまとめる。

●研修活動

・研修活動として「統一展望台」「独立記念館」「韓国民族村」を見学
・「統一展望台」は漢江を国境にして民族が南北に分断している韓国の現実を肌で感じられるところである。スカウトは厳しい現実を感じていた。
・「独立記念館」は韓国の独立運動に参加した人たちの業績を伝えるために設立されたものであり、第二次大戦の戦前、戦中における日韓の関係についても展示している。スカウトには初めて直面する事実もあり、中にはショックを受けたスカウトもいた。これが現実であることを直視してほしい。
・「韓国民族村」は韓国の伝統文化を紹介する生きた博物館である。韓国の民俗芸能にふれることができ、各種のイベントも開催されていた。楽しい時間を過ごした。

４．その他

・今回の海外派遣は県連としての新たな海外派遣の第一歩と位置付け、国際専門委員会において２年にわたる計画検討と具体的プログラムの策定の結果であります。
・この間、県連および県コミッショナーグループ、各種委員会など多くの方々にご協力をいただきました。ありがとうございました。
・また、韓国連盟ソウル南部連盟とりわけソンパ地区の役員、指導者の方々の献身的なご協力があっての派遣成功であったと考えます。
・派遣スカウトにとってはほとんどが始めての海外でありましたが、大きな自信と誇りを持って帰国しました。今後のスカウティングに大いに役立つものと確信します。
・疲れと食事の面から体調をくずしたスカウトがありましたが、ソンパ地区指導者およびキャンプ場関係者の協力により対応ができました。今後の課題です。
・今回の派遣からスカウトに活動の場を与えることにより、スカウト自身は大きく成長することが実感されました。特にスカウトフォーラムにおける日韓スカウトからの提言は大いに感動させるものでありました。



東西南北かわら版

平成13年度 富士章受賞スカウト顕彰

平成14年3月22日～23日にかけて、日本連盟山中野営場(山梨県)において、平成13年度に富士章を受賞したスカウトの栄誉を称え、ベンチャープロジェクトの報告・討議をすることで、今後の活躍を期待する「富士章受賞スカウト顕彰」がまた、同月25日～26日には、東京三鷹のボーイスカウト会館で「平成13年度富士章受賞スカウト代表表敬」が開催され、本県連からはそれぞれ2名と1名が参加しました。

●平成13年度富士章受賞スカウト顕彰参加報告

千代田第1団 秋葉 純

今回参加した、富士章受賞スカウト顕彰は大変に有意義なものでした。特に他の都道府県連盟のスカウトと出会えたのが良い刺激となりました。また、ボーイスカウト運動に参加している人は個性が強い人が多いなと感じました。その中でも、富士章を目指す人は特に強い個性を持つ人が多いと感じました。この刺激は是非後輩スカウトにも感じてもらいたいと思います。自分自身のスカウト運動に対する考え方、自分自身を見つめ直すための良い機会になると感じました。

この、スカウト顕彰に参加して痛感したことがあります。「海外への派遣隊には是非参加すべきだ。」と強く思いました。現地で編成された、私の班でも私以外のスカウトは海外への派遣隊に参加したことがあるとのことでした。彼らが言うには「海外に行くと自分の視野が広がる。」、「物の見方が変わる。」と言っていました。富士章を取得する条件として海外派遣隊への参加は条件に含まれていませんが、富士章を目指すならば一度は海外派遣隊への参加を経験したほうか良いと思いました。

私は富士章顕彰キャンプが終わった時に2つの課題を決めました。1つは私が経験したことを後輩スカウト達にどう伝えていくかということです。これは指導者として活動し、各研修所や実修所に参加して模索していこうと考えています。2つめは、今回富士章顕彰キャンプで出来たネットワークをいかに維持していくかということです。海外派遣隊に参加したスカウトの人達も、派遣隊が解散すると連絡をあまり取らなくなることが多いようです。そのようなことにできるだけならないように、手紙やインターネット、電話等を活用して密に連絡を取り合って行きたいと思います。

以上、富士章顕彰に参加した感想とこれからの抱負を報告します。

●平成13年度富士章受賞スカウト顕彰に参加して

水戸第4団 加藤 貴裕

私は富士章受賞スカウト顕彰に参加しました。これは、その年に富士章を受賞したスカウトが多く参加し、今までどのようなスカウト活動をしたか、また、今後の活動について話し合いました。集まっている人が、自分の興味のあることをやってきたので、そのプロジェクトについて詳しく聞くことができて、とてもためになりました。

ここで一番印象に残ったのは、大きなプロジェクトがすばらしいプロジェクトになるとは限らないということです。どんなに規模が小さいものでも事前の調査や計画をし、活動後の考察、反省をすれば立派なプロジェクトとなり得ます。これを忘れずにこれからの活動に活かしていきたいと思います。

ここまでだと固い合宿だと感じるかもしれませんが、くだけて気楽な時間もありました。その中でも、夜の立食パーティーは格別でした。自由に話せる時間が長く取ってあり、楽しい時間を過ごすことが出来ました。ちょっとしたゲームや出し物もあり、飽きることなく、計画のすばらしさを感じ取ることもできました。今思えば、このパーティーがとても楽しい時間になったのは、やはり「めりはり」のある進行のお陰だったのかもしれません。

この合宿でメインだと感じたのは、やはりより優秀なプロジェクトを行ったスカウトの発表でした。確か、発表したのは5人でしたが、紙でボートを作り川を下ったり、牛の受精にかかる時間と性別の関係について実験したりと、ほとんどの人が話し切ることができずに終わってしまったのが唯一残念に思った点でした。聞いている側の質問が絶えず、もっと時間があれば、さらに内容の濃い発表会になるだろうと考えます。その後の他の人の感想を聞いてみると様々なものがあり、とらえ方の大きな違いも注目すべきことでした。この様に、聞く側も発表者の善し悪しに関わっているのです。

以上が今回のだいたいのプログラムでした。この合宿が、単に富士スカウトを祝うだけのものではなく、学ぶことの多いスカウト活動であったことを嬉しく思います。

●平成13年度富士章受賞スカウト代表表敬に参加して

水戸第8団 後藤 佑介

2日間に亘って行われた富士章スカウト顕彰は、とても有意義で貴重な体験となりました。1日目は、東京のスカウト会館に集まり、そこで全国の富士スカウト達と出会いました。ここに集まったスカウトは、いわば難関を突破してきた人達ばかりで、彼らと話し合うことで改めてボーイスカウトの意義と楽しさ知ることができました。

2日目に東宮御所で皇太子殿下に謁見しました。私にとって、これ程の緊張感は初めてで、皇太子殿下に話しかけられた時は頭の中が「真っ白」で、うまく答えられなかったのが後々になって悔やまれました。その後、小泉首相、遠山文部科学大臣の所へ表敬訪問に伺い暖かい声援を頂きました。

私にとって、この顕彰に参加してよかったことは、全国の富士スカウトと会えたことでした。自分は何のアワードやった。こんなことをしたらみんなに楽しんでもらえた。次はもっと違ったことをしてみたい。等々、様々な話を聞けて、自分とはまた違った富士スカウトの雰囲気を感じることがで

きました。わずか2日間の期間で時間もあまりなくて十分に話すことができなかったけれど、またいつか会う機会があれば、今度は何かを一緒にしてみたいと思いました。

私はボーイスカウトを通して、学校では習わない貴重な体験を学びました。それは自分達で作って、自分達で達成するというものです。これは実社会でも必要なことであり、これから生きていく上で間違いなく役に立つものとなるでしょう。私もボーイスカウトで学んだことを生かし、微力でも社会に貢献していきたいと思います。

最後に、私の富士章取得に協力してくれたリーダー達、先輩、後輩、並びに関係者の皆様に感謝します。

（県進歩委員会「平成13年度富士章受賞スカウト顕彰報告書」より転載）

コミッショナー通信

県副コミッショナー　吉川　勲

アダルトリソーシス方針のこと

アダルトリソーシス方針（以下AR方針）は、各方面で不安と恐怖のうちに囁き声で紹介され、具体策が見えないままにいつの間にか風化しかかっているように思えます。やれリストラだ、外部人材登用だ、と様々な噂がありましたが、どうも誤解が多いようです。

AR方針は、1988年のメルボルンの世界スカウト会議で採択された「スカウティングのための戦略」を受けて、1990年のパリ会議において「青少年プログラム」と共に採択された「スカウティングにおける成人（AIS）」の原理に基づき、1993年のバンコク会議で採択された「世界AR方針」によって一般的に使われ始めた言葉だと思います。一言で言えば、「スカウト運動における成人指導者のあり方」です。

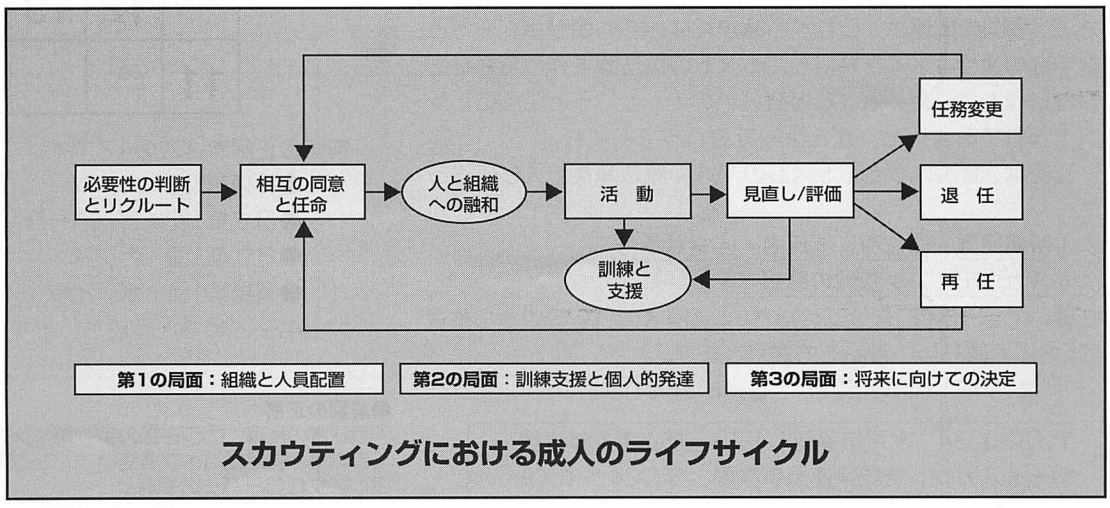
AR方針に先立ち、スカウト訓育のための各国の基本方針の強化を図った「プログラム開発」があり、社会における意志決定への青少年の関与を推進するための「青少年プログラム」があったことがよく知られていません。世界のスカウティングは「地域における青少年の健全育成」というミクロな運動から発展し、地域開発から国家的啓蒙活動や世界平和といった地球規模での人類社会の構築に直接的・積極的に関わることを目指しています。特にスカウティングの内容に劇的な変更があるわけではありません。これまで、「講習会」や「規定集」の片隅の追いやられていたスカウティングの原理を再確認し、運動の方針を拡大・強化し、本来の目的を達成しようというものです。

スカウティングはスカウトが実践するものであり成人はその活動を支える、という当たり前（と誰もが思っていた）ことを明確にし、組織として本来やるべきでありながらやってないことやスカウト支援に不具合になった制度に手を入れようというのが、AR方針です。スカウト運動は組織を通して実践されますから、スカウト組織にこれまでに存在しなかったものを導入するのではなく、新しい方針を持ち込むと考えればいいと思います。

では何がどうなるのかというと、日連としてもまだ模索中です。大きなスカウト運動ですからやるべきことが多すぎるのです。しかし、誰にでもできることは、自分はスカウト運動に参加して「なすべきこと」を実践しているかを再認識することです。スカウティングの原理に対する理解を深め、それをいかに実践するかを考えることです。

昨年から実施されている「何（誰）のためのスカウティングか」というワークショップが茨城県連盟でも実施されますが、この目的はスカウト運動に関与する成人の意識の共有を図ることです。かんたんに見える「スカウティングの原理」は実は実践しようとすると様々な問題が発生します。自己流のスカウティングではいけないのです。経験や研修を積んだ成人指導者といえどもこのような機会に、運動に関与する上での意識の共有を図るべきでしょう。

手始めに、「2002年へのアクションプラン」をチェックし、自分に与えられた任務を果たしているかどうか自問してはいかがでしょうか。「成人のライフサイクル」の図は随分浸透していると思います。これは本来あるべき姿です。1〜2年内にも適用されますが、それを待たずに身近なコミッショナーを交えて意見の交換をし、意識の共有を図ってください。



スカウティングにおける成人のライフサイクル

★県連 インフォメーション

●ウッドバッジ研修所開設のお知らせ

◆ＷＢ研修所 ローバースカウト課程関東第１期

日　時：　９月13日(金)～16日(月)　３泊４日野営
場　所：　土浦市立　土浦青少年の家
参加費：　15,000円
資　格：　現在ローバースカウト指導者、または指導者講習会を修了し指導者となられる方で、平成14年度の登録が完了している方。
参加申込　基本訓練申込書に必要事項を記入し、団委員長の同意と地区コミッショナーの推薦を受けて、課題研修を添えて７月25日までに県連事務局に申し込んでください。

●県連の正式名称が変わりました。

この度、県連の正式名称が変わりましたのでお知らせします。(旧) ボーイスカウト茨城県連盟→

(新) 日本ボーイスカウト茨城県連盟

●指導者のための各種研修は・・・

県連ホームページの「指導者訓練日程」をご覧ください。
・ウッドバッジ研修所
・各地区主催の定形外訓練
等の情報が掲載されています。

【URL : http://www.d2.dion.ne.jp/~bs18raki/】

県連ホームページは、今後、スカウト活動に、そしてスカウトの指導に役立つHPを目指していきたいと思います。是非見に来てください。

WOOD BADGE

ウッドバッジ研修所

いずれも「土浦市立土浦青少年の家」にて



カブスカウト課程茨城第30期　竹内由比子所長　28名
2002.5.3-5.6



ベンチャースカウト課程茨城第５期　吉田俊仁所長　12名
2002.5.3-5.6

★スカウトくいず　「まほうじん25」

8	1	6
3	5	7
4	9	2

さて、今回はちょっと趣向(しゅこう)を変えて、魔法陣クイズでいってみましょう。ここで言う魔法陣とは(左の図を例にとると)、１から９までの数が９個のマスに入っていて、その縦・横・斜めそれぞれの列の3つの数をたすと、その答えはすべて同じ(この例では15)になるもの・・なのである。

さて、今回の問題は、これから暖かくなっても頭がポケーっとならないよう４×４を飛ばして５×５の魔法陣を作ってもらおうというもの。だけど、ちと難しいので、ところどころにヒントを入れてみました。がんばってつくっておくれ。

回答は、官製はがきに５×５のマスの魔法陣を記入して送ってください。

①所属団隊　②住所　③氏名　④電話番号
⑤スカウティング茨城の感想

を書いて、下記宛に送ってください。正解スカウトの中から抽選で5名に素晴らしい賞品をお送りします。
(〆切は、平成14年8月30日、当日消印有効です。)

〒310-0034　水戸市緑町1-1-18　県立青少年会館
ボーイスカウト茨城県連盟事務局　ＳＣ24クイズ係

		1		15
	5			
	6			
	12	19		3
11				

前回の正解者は次の4名です。

●神栖第1団　カブ隊　　松沢結理香　さん
●日立第1団　ビーバー隊　　北見　涼　くん
●日立第1団　カブ隊　　北見　啓太　くん
●阿見第1団　ボーイ隊　　野口　円　さん

以上4名、おめでとうございます!!

●前回の正解
①うさぎの片耳　②うさぎの手　③ベンチャーのシャツのそで　④くまの耳　⑤足場パイプ筋交い　⑥後ろ向きのリーダーの背中の文字　⑦女性ローバーの腕時計